

## ヨーロッパ、旅の思い出でーとりよめのなごヨーロッパの旅

藤田 忍

一昨年（平成十八年）四月、ヨーロッパを一ヶ月ばかり旅行してきた。特に、ドイツには長く滞在し、南部のミュンヘンでは、ちょうど日本とオーストラリアとのサッカーの試合があったが、私はこの時、北のハンブルグに居たので、テレビで見せて戴いた。私が最初にハンブルグに行ったのは、三十数年前で、国際東洋学者会議の時だった。この会議は、アジアの歴史についての研究発表が主で、世界中から専門の東洋学者が集まっていた。

この会議は七月頃だったと思う。此の町には大きな公園兼植物園があり、ここでの弁当の昼食は最高だった。夜は屋台で大きなソーセージとビールを飲んでいた。

日本でソーセージとかハムを食べると、お腹の調子が悪くなるので、ここでも同じだろうと思っていたが、逆にお腹の調子がよくなり、なぜだろうと考えてしまった。多分、肉の質がいいのと、防腐剤が入っていないからだったと思う。



ハンブルグ（藤田氏提供）

日本では、カップラーメンとか、ファーストフードの肉やポテトフライはさけるようにしている。とくにアメリカのファーストフードのハンバーグはクズ肉で有名なようで、一時食用ミミズに変えたようだが、ミミズのコストが上り、またクズ肉になつたようだ。ドイツでは駅の芥箱（ごみ

ばこ）も、燃えるゴミと、燃えないゴミ、プラスチックの三分のボツクスが置いてあり、いずれ日本でもこうなるだろうと思っていた。ハンブルグの会議から五・六年後にハンガリーのブタペストで国際会議があった。ここでは水の質が悪いのか、飲料水はミネラルウォーターとソーダ水だった。

ブタペストの会議は着いてから五日後だったので、その間ベルリンへ遊びに行くことにした。ベルリン行きの列車に乗ったのはいいが、ウィーン回りで行くべきだったのに、スロバキア、チェコ（プラハ）回りの列車に乗ってしまった。当時はスロバキアとチェコはビザが必要な時代だったので、拳銃をさげた係官に役所まで来るように言われた。

朝からワインを飲んでいて勘ちがいをしてしまったのだ。お金を支払い、ビザのスタンプを押ししてもらった。ブタペストに引きかえすべきだったが、夜中のせいもあり、プラハ行の列車に乗ってしまった。乗客にスロバキアの人に乗っていて、パンなどをもらい親切にしてもらった。ただ、其の人はドイツ語はわかるが、英語にはなじみがないようで、話すのに苦労した。ヨーロッパの列車は乗った時、車掌がきて、切符を見せると、目的地で降りる時はフリーパスだった。

さて、ドイツのホテルのいいところは、朝食が食べ放題のバイキング方式で、食堂に客が入るたびに新しく作ってくる。ハムやソーセージ、チーズの種類が多いのは驚いた。

イギリスのロンドンの朝食は、ピカデリーサーカスの駅ちかくの安ホテルのせいもあったが、ダンボールみたいな紙の箱の中にパンなどが入っており、これがホテルかと思つた。それに比べると、スコットランドのエジンバラでは、古い二階建の木造のホテルだったが、朝食はドイツ式で気持がよかった。ホテルから北に行くと、ネス湖があった。この湖には恐竜がいるということ有名だったが、近ごろの説では恐竜は住んでいなかったようだ。朝、ホテルの食堂に入ったとき、アメリカ人の

### 風信

○新幹線が武雄より諫早まで長年の念願かなって着工されるという。「諫早まででなく後一步、長崎まで延長してほしい」と知人は言う。この新幹線問題については「長崎新聞」の特集欄に詳しい論考が記載してあり長崎県民は一読しておくべき論文であろうと思つた。

○先日、高原啓子女史、古代チュニジアの遺跡を訪ねる旅から帰つてこられた。途中で立ち寄つたドバイの建築群は話にたがわず驚かされたと言われる。お土産に木の実の入った洋かん Loukoum Hazem という非常に甘いお菓子を戴いた。

○今年もまた、宮田修二・川原清の両氏より是非古文書を読む研修会を開催しましょうよと言つてこられた。私は「年を取りすぎましたし」と申し上げたのですが、四月一日より再び皆さんに引きずられて、前回同様自由参加で会費不要、月二回古文書会を開催という結論になった。

○五月四日、昨年引き続き本会協賛で長崎九條会主催で「子供の日」に因んで「子供達と歩く長崎の史跡」を開催する事になったので御自由に御参加下さい。午前十時電停正覚寺前集合。コース・茂木街道を田上まで、切り通しを下り旧薩摩藩御用屋敷・白糸滝・小島小学校教師弟碑。

○日本コミュニケーション学会・九州支部より第一回の研究発表誌として「人・言葉・社会・文化とコミュニケーション」研究誌が発刊され各方面より注目されている。私も純心大学畠山功教授のおすすもあつて「長崎通事（詞）考」を執筆させて戴いた。（北樹出版・二三〇〇円）

○先日・東京より来客あり、「今回は長崎のサント・ドミンゴ教会跡の資料館に立ち寄つたが、此の地にあのような立派な遺跡と資料館がある事を今まで知らなかった」と言われる。長崎市は宣伝不足ですねとも言われた。「展示の中で特にギリシヤン瓦の展示と発掘状況の説明がよかった」そうである。場所は桜町小学校の裏で長崎歴史文化博物館の正門前であり、無料公開されているので、市は「新観光コース」に加えて戴くとよい。

○今年度の本会協賛のNHK長崎文化センター主催史跡見学会で先月は久留米の国重要文化財善導寺。同文化財高良神社建造物と国史跡の神籠石。権現塚古墳（国史跡）等を巡つた。

最後に寝台車と水について話したい。北ヨーロッパでは水が悪いせいかミネラルウォーターを売っていた。ベルギーのブリュッセルからイタリアのミラノ駅に着いた時、水がなくなつたが、駅の売店でも売っていない。こまつたなあと思つていたら、駅員が水道の蛇口から飲んでいたので、この水のうまいこと、日本の水道の水は飲めないと思つた。寝台車と言えばミラノ駅からミュンヘン行き列車に乗った時。一等車だったが、二段ベットで、各部屋にはカギのかかるドアが付いていた。部屋では飲料水も飲め、車両ごとにシャワー室が付いていた。戦前のドイツと言えば、ヒットラーの生存中だ。ヒットラーには影武者（ダブル）が二人いたようで、ある作家の小説では、松岡洋右外務大臣がヒットラーにあつて、感激した話が詳しく述べてあつたが、この時のヒットラーは甥の方だったかもしれないと言う。またヒットラーがパリを占領して行進したときのフィルム（映画）を見たが、パリはひさしぶりだと話していた。本物のヒットラーはパリには行つたことがなかったというので、この時のヒットラーは母親がちがう兄の方だっただろうと言われている。

（歴史学研究講師）

長崎歴史文化協会研究室

TEL八二二一五四〇  
十八銀行公会堂前出張所二F

